

私のカルテ

No 4 1 2

ピンクリボン

院長
津島市民病院かみなり
あきら
神谷里明

10月はピンクリボン月間です。ピンクリボン運動は乳がんに関する正しい知識の啓発や研究の手助けなどを行う活動です。1980年代にアメリカで発足し、乳がんによる死亡率の低下を目的としています。そのためには早期発見、早期治療が重要です。平日に検診を受けにくい方のために10月第3日曜日に乳がん検診を実施しており、津島市民病院も2013年から参加しています。

乳がんは女性に発症するがんの中で最も多く、まだ増加傾向にあります。年間10万人近くの方が発症しています。ただし亡くなるのは年に1万5千人くらいであり、8割以上の方が治っていることとなります。ただし同じ乳がんであっても自覚症状のない(しこりを触れない)検診発見乳がん、しこりなど自覚症状が出現した後に診断される乳がんでは治療法や治る割合に大きな差があります。6月からがん検診が始まり、乳がん検診は3月までできます。がん検診はそのがんで命を落とさないように早期に発見し、治すことが目的です。

乳がんに関しては世界中でマンモグラフィーによる検診が行われており、検診受診割合の高い国では乳がんによる死亡率の低下が報告されています。そのような国では対象女性(多くの国では50歳以上、一部の国では40歳以上)の7~8割の方が検診を受けています。残念ながら日本において乳がん検診(対象は40歳以上)受診率は2年に1回の受診で約4割に過ぎません。

まだ腫瘍しゅりょうを自覚しない早期の段階で乳がんと診断できればほぼ確実に治すことができますし、治療も手術のみで終わる場合も多くあります。しかしながらある程度しこりが大きくなり、自覚できるようになったり、わきの下のリンパ節に転移を起こしている状態で診断された場合は手術だけで治すのが難しくなります。手術の前後に抗がん剤等の治療が必要になることが多くなり、それでも将来的には再発の危険性を一定割合持ちながら経過を見る

こととなります。新しい薬が数多く開発され、再発を予防することが以前より多くの方にできるようになりました。また再発しても症状発現を遅くしたり、寿命を延ばすことができるようになってきています。しかし再発してしまったがんを完全に治すことはまだ困難なことがほとんどです。まれにがんが見えなくなり治ったと思えることもありますが、その後再度表に出てくることも多いことが現実です。再発しないように治療するのががんに対する治療の第一の目標です。そのためには早期発見が第一です。そのことにより、がんになってもほぼ確実に治ると言うことができます。

乳がんに関して以前は自己検診をしましょうと伝えていました。ただ、しこりがあるかどうか探すことは不安をおおることにもつながってしまうこともあり、現在ではしこりなど異常を探すのではなく、今のお乳の状態を知りましょう(breast awareness)と伝えていきます。常日頃から自分のお乳に関心を持ち、状態を知っておくことが早期発見につながります。対象年齢(日本では40歳以上)になったら検診を低額で受けることができますので、特異な家族歴(親戚、姉妹に複数の乳がん発症者がいるなど)がなければ2年に1回乳がん検診(マンモグラフィー検査)を受けましょう。乳がんは唯一自分で早期に発見できるがんです。進行した状態で診断され後悔する前に、せっかくながら検診の制度がありますので定期的に乳がん検診を受けいただくことと、検診までの間は自分のお乳に関心を持っていただくことが大切です。

